

イラストシート例

どんな危険がひそんでいるか

業務名：窓ふき



状 況

あなたは、脚立を使って、窓ふきをしている。

第1ラウンド 7つのポイント

1. イラストの中の作業者になりきる
2. 危険を“危険要因”と“現象（事故の型）”でとらえる
3. “現象”は“事故の型”で言い切る
4. “危険要因”はできるだけ
“不安全な行動”と“不安全な状態”でとらえる
5. “危険要因”を掘り下げていく
6. “危険要因”は具体的に表現する
7. “危険要因”は肯定的に表現する

2 KYT基礎4R法の具体的な進め方

<導入>気持ちを引き締め、話し合いに入る雰囲気作りをする（役割になりきって）

手 順	要 領 ①	要 領 ②
① 整理 ・ 番号	・ 全員起立 円陣 = [健康観察] ・ リーダーの隣から順に「1」「2」「3」 ・ …最後にリーダー	リーダーは、メンバー1人 ひとりの姿勢・動作・顔・ 表情・目・会話を観察
② 挨拶	・ 「おはようございます」「こんにちは」など一言	
③ 健康確認	・ 「固有名詞」で「具体的に」に問いかけて健康状態を 確認する	訓練では1名を対象に行 う

<第1ラウンド>現状把握：どんな危険がひそんでいるかの話し合いを行う

① みんなの話し合いで、イラストシートの状況にひそむ危険を発見し、“危険要因”とその要因が引き起こす“現象（事故の型）”を想定して出し合う（5項目以上）

② 出された危険要因が具体的かを見直す

手 順	要 領 ①	要 領 ②
1. リーダーは “どんな危険がひそんでいる か”をメンバーに問いかける	① イラストシートをメンバーに見せる ② 「状況」を読み上げ ③ 全員が発言するように心がける	
2. メンバーは気付いた危険を発 言する 危険要因 + 現象 (“状態”と“行動・動作”)+(事 故の型) ----- ～なので ～して ～になる ～なので～して ～する	・ イラストシートの担当者になりきって ・ ドンドン発言することが大事 ・ 危険要因は、できるだけ具体的に 危険の“状態”と“行動（動作）”を明らか にする	・ 「なので」「して」「す る」という言葉づ かいは、特にこ だわる必要はない ・ 表現が難しければ ジェスチャーを交 えてもよい ・ この段階では、で きる範囲でよい (考え込んで討議 が止まらないよう に)
3. 書記は発言を模造紙に記入す る	・ 手早く横書きする	・ 発言を要約しない でドロクサイ表現 のままでよい ・ 漢字にこだわらず “ひらがな”“カタ カナ”でよい
4. あらかじめ決めた目標項目数 (7項目)以上、できるだけ 多くの危険を発見するように	・ リーダーは目標項目数出たら他にないかを 問いかけ確認する ・ メンバーは新たに気付いた危険があれば発 言する	
5. 各項目を、話し合って見直し 必要があれば加筆・訂正する	・ 発言者が気付いた危険をみんなが“アリア リと目に浮かぶように”、次の7つの項目 を参考にして具体化する ① イラストシートの作業者の身になっている か ② 危険要因と現象の組合せで表現されてい るか ③ 現象は「事故の型」で言い切っているか ④ 危険要因は状態と行動（動作）で表現され ているか ⑤ 危険要因が掘り下げられているか ⑥ 危険要因が具体的に表現されているか ⑦ 危険要因が肯定的に表現されているか	・ 見直しの結果、新 たな危険に気付い たら発言を追加し てもよい
6. リーダーは、第1Rの終了を 告げる	・ 予定時間を考慮して ・ ラウンドの区切りをつける	

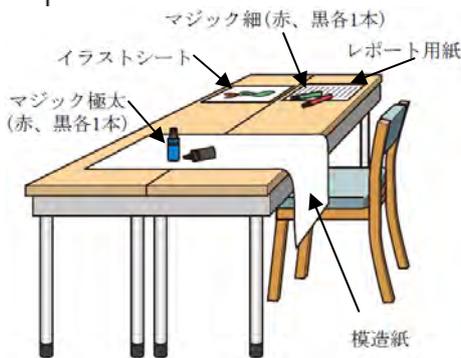
模造紙とレポートの記入例（導入、1R）

シートNo 2

3千一ム

1R

1. 力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。
2. 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついてよろけて落ちる。
3. 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。
地面まであと2段なので
4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。
5. 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。



危険予知訓練レポート		シート 2	日時 21.7.7	場所 第3会議室
チーム名	チームコンパニオン	リーダー	書記	司会者
3-	山本 新選 田中			講師 木村

第1ラウンド <どんな危険が隠れているか> 窓の拭き方を発見→手拭い、「危険予知」とそれによって引き起こされる「結果」を想定する。
 第2ラウンド <これが実際のポイントか> 発問を踏まえ、「重要危険点」を絞り、さらに絞り込んで、「脚立のそばに」「窓のそばに」を絞り、「危険予知」と「危険回避策」を想定して「1分間で決めてください」というように進める。

1. 力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入
2. 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。
3. 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。
地面まであと2段なので
4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。
5. 脚立から降りて拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。



第3章 KY活動

<第2ラウンド>本質追究：これが危険のポイントだ

《発見した危険のうちから、質の高い重要だと思われる危険を合意し、『危険のポイント』とする》

- ①発見した危険のうち、これが重要だと思われる危険に○印を付ける
- ②さらに、しぼり込んで◎印とアンダーラインを付け、『危険のポイント』とする
- ③『危険のポイント』を指差し唱和で確認する

手 順	要領 ①	要領 ②
1. リーダーは、第1ラウンドで出された危険のうちチームにとって「問題のある重要な危険は何か」を問いかける	第1ラウンドで出された項目をみんなでながめて。	1項目ずつ読みあげてもよい。
2. メンバーは、重要と思う項目の「No.」を発言する	①「これは問題だなあ」「これはウツカリできないぞ」と思う項目の「No.」をドンドン発言する ②書記は「赤」で「No.」に○印をつける	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの意見を尊重し、特に全員の合意は必要ない ・○印は、何個になってもよい
3. みんなの合意で『「危険のポイント」にしぼり込む <1～2項目>」	①リーダーは、メンバーにはかって全員の合意で ・『危険のポイント』は、多数決ではなく ・「ソウダコレダ」「ヤッパリコレダ」という感じで ・全員の合意でみんなが納得できる特に関心の高いものを見出す ②書記は「赤」で◎印とアンダーラインを付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・対策に緊急を要するもの…現象(事故)の可能性・頻度 ・重大事故となる可能性のあるもの…事故が起こった時の結果の重大性 ◎印の表現をもう一度、具体的か見直す
4. 『危険のポイント』を指差し唱和で確認して、第2ラウンドをしめくくり、次のラウンドに入る	リーダーのリードで全員で指差し唱和する。 リーダー「危険のポイント！～なので～して～になる ヨシ！」 全員「～なので～して～になる ヨシ！」	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正して、目と指先で文字をおいながら ・「この危険を何としても解決するぞ！」という決意をこめて確認する。

模造紙とレポートの記入例（2R）

シートNo 2 3千-6

1R 2R

1. 力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。
- ② 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついてよろけて落ちる。
- ③ 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。
地面まであと2段なので
4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。
- ⑤ 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

2	21.7.7	第3全盛生
3	山本 新選 田中	清原 太村

1. 力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。
- ② 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。
- ③ 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。
地面まであと2段なので
4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。
- ⑤ 脚立から降りて拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。



<第3ラウンド>対策樹立：あなたならどうする

《『危険のポイント』に対して、話し合いで対策を出し合う》

『危険のポイント』を解決するにはどうしたらよいかを考え、具体的な対策を立てる

手 順	要領 ①	要領 ②
1. リーダーは『危険のポイント』について対策をメンバーに問いかける	①それを予防したり、防止したりするのに「あなたならどうする」と ②全員が発言するように心がける	
2. メンバーは、“ 具体的で実行可能な対策 ”を「～する」と発言する	①イラストの作業者の立場になってドンドン発言することが大事 ・対策は「～しない」など否定的・禁止的ではなく、 ・「～する」という実践的な前向きな具体的な“行動内容”で ②書記は模造紙に記入する	・自分なら「こういう状況ではこうする」「こうすることが必要だ」というもの ・一人ひとりの意見を尊重し特に相談は必要ない ・“行動内容”とは「業務のやり方」だけでなく「よい状態をつくる行動」も含む
3. あらかじめ決めた目標項目数を出し合う <各3項目程度>	・リーダーは目標項目数出たら他にないかを問いかけ、確認する ・メンバーは新たに気付いた対策があれば発言する	
4. リーダーは、第3ラウンドの終了をメンバーに告げ、次のラウンドに入る	・予定時間を考慮して ・きりのよいところで	ラウンドの区切りをつける。

模造紙とレポートの記入例 (3R)

危険予知訓練レポート		シートNo 2	とき 21. 7: 7	ところ 第3会議室	G20315		
チームNo-チーム名	チーム・ニックネーム	リーダー	書記	レポート係	発表者	コメント係	その他のメンバー
3-		山本	佐藤	田中			渡辺 木村
第1ラウンド <どんな危険がひそんでいるか> 潜在危険を発見・予知し、「危険要因」とそれによって引き起こされる「現象」を想定する。 第2ラウンド <これが危険のポイントだ> 発見した危険のうち、「重要危険」に◎印。さらにしほり込みで、特に重要と思われる「危険のポイント」に◎印。 「危険要因」と「現象(事故の勢)」を想定して「～なので～して～になる」というように書く。							
1. 力を入れて汚れをもみ洗ったので、はねた水が目に入る。 ② 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。 ③ 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。地面まであと2段なので 4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。 ⑤ 脚立から降りて拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。							
第3ラウンド<あなたならどうする> 「危険のポイント」◎印項目を解決するための「具体的で実行可能な対策」を考える。 第4ラウンド<私達はこうする> 「重点実施項目」をしほり込み ※印。さらにそれを実践するための「チーム行動目標」を設定する。							
◎印No	※印	具 体 策		◎印No	※印	具 体 策	
2		1	脚立を正面に置く。			1	
		2	脚立の反対側に昇る。			2	
		3	脚立をこまめに動かす。			3	
		4				4	
		5				5	
チーム行動目標 ～する様は ～をして ～しようヨ!				チーム行動目標 ～する様は ～をして ～しようヨ!			
指差し呼称項目				指差し呼称項目			
上司(仮)のコメント							

シートNo2

1R 2R

1. 力を入れて汚れを

② 脚立から離れた窓
ぐらついてよろけ

③ 脚立から飛び降り
地面まであと2段な

4. 昇りながら窓に近

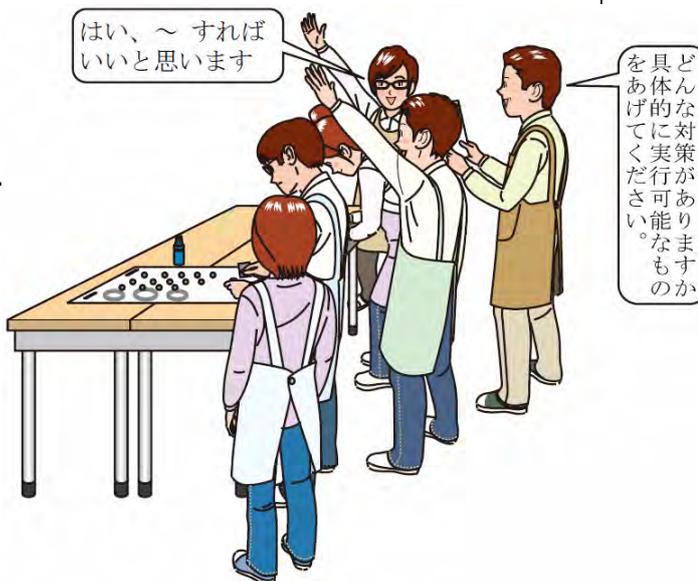
⑤ 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので
脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

3R

2-1. 脚立を正面に置く

2-2. 脚立の反対側に昇る

2-3. 脚立をこまめに動かす



<第4ラウンド>目標設定：私達はこうする

《対策のうちから質の高い項目を、みんなでの合意で絞り込む》

- ①対策の中かしぼりこんで※印とアンダーラインをつけ『重点実施項目』とする
- ②『重点実施項目』を実践するための『チーム行動目標』を設定する
- ③『チーム行動目標』を指差し唱和して確認する

手 順	要 領 ①	要 領 ②
1. リーダーは、第3ラウンドで出た対策のうち、チームとして「必ず実施しよう」という対策は何かを問いかける	第3ラウンドで出された項目をみんなでながめて。	
2. みんなの合意で『重点実施項目』にしぼり込む 《各1項目》	① リーダーは、メンバーにはかって『危険のポイント』を解決するのに必要な“当面の行動内容”を全員の合意で決める ②書記は、「赤」で※印とアンダーラインを付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・『重点実施項目』は、タテマエでなくホンネで ・自分達は必ずこれを実践しようということ
3. 『重点実施項目』をズバリとらえた、具体的な『チーム行動目標』を設定する 《各1項目》	①リーダーは、メンバーにはかって全員の合意で『チーム行動目標』決める ・『重点実施目標』をさらに具体化して“アリアリと目に浮かぶ”ように ②書記は、模造紙に記入する	<p>『チーム行動目標』は、「～する時は」または「～の時は」とその場面を特定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～しないようにしよう」と言った否定的・禁止的な表現でなく ・「～を～して～しよう」というように前向きで具体的な行動内容でとらえる ・各『重点実施項目』を、1つの『チーム行動目標』にまとめる場合もある
4. 『チーム行動目標』を指差し唱和で確認して第4ラウンドをしめくくる	<p>リーダーのリードで指差し唱和する。</p> <p>リーダー「チーム行動目標！～する時は、～をして～しよう ヨシ！」</p> <p>全員「～する時は～を～して～しよう ヨシ！」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正して目と指先で文字を追いながら ・「この行動目標を何としても実践するぞ！」という決意表明

模造紙とレポートの記入例（4R）

シートNo2

1R 2R

1. 力を入れて汚れをもみ洗ったので、はねた水が目に入

② 脚立から離れた窓を拭こうと身を垂り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。

③ 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。地面まであと2段な

4. 昇りながら窓に近

⑤ 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

3R 4R

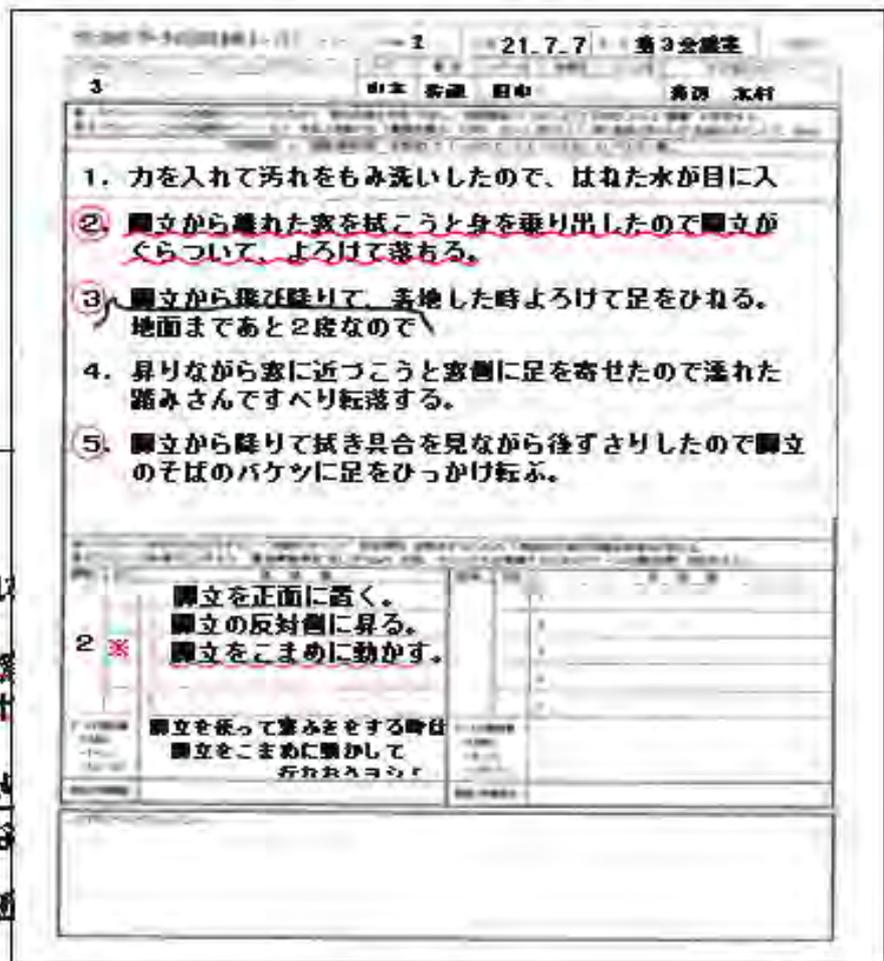
Z-1. 脚立を正面に置く

Z-2. 脚立の反対側に昇る

※ Z-3. 脚立をこまめに動かす。

チーム行動目標

脚立を使って窓ふきをする時は、
脚立を こまめに動かして行なおう ヨシ！



模造紙とレポートの記入例（確認）

シートNo 2

1R 2R

1. 力を入れて汚れ
- ② 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。
- ③ 脚立から飛び降りて、落地した時よろけて足をひねる。地面まであと2段なので
4. 昇りながら窓に近

- ⑤ 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

3R 4R

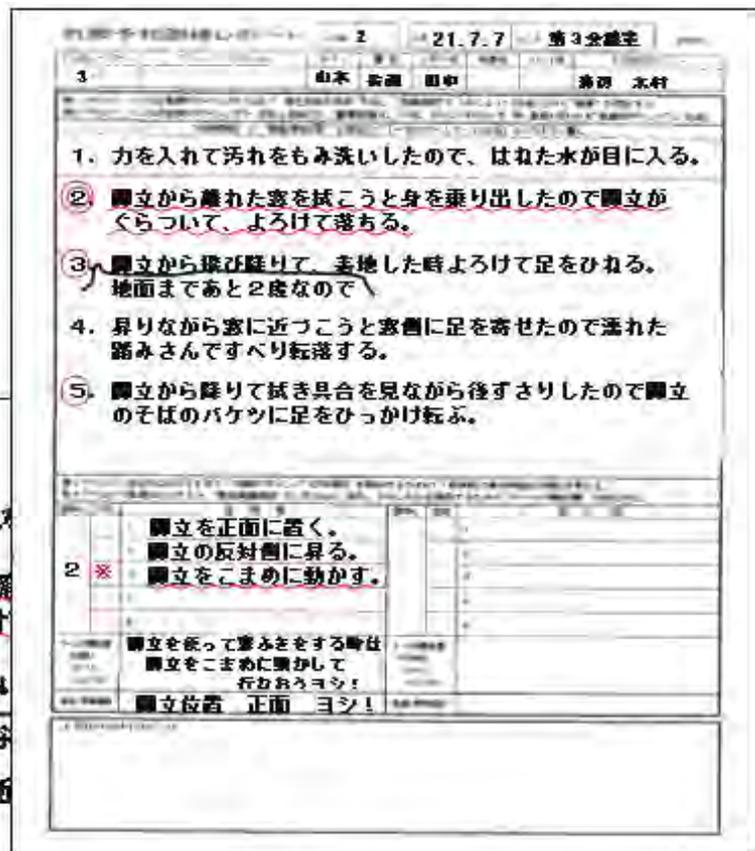
- 2-1. 脚立を正面に置く
- 2-2. 脚立の反対側に昇る
- ※ 2-3. 脚立をこまめに動かす。

チーム行動目標

脚立を使って窓ふきをする時は、
脚立を こまめに動かして行なおう ヨシ！

指

脚立位置 正面 ヨシ！



KYT基礎4R法 手法のまとめ

<p>準備</p>	<p>1 チーム 5～6人</p>	<p>役割分担 (リーダー・書記・レポート係・発表者・コメント係) 模造紙・レポート用紙 配布</p>
<p>導入</p>	<p>[全員起立] リーダー＝整列・番号、挨拶、健康確認</p>	
<p>1 R</p>	<p>現状把握 どんな危険が ひそんでいるか</p>	<p>リーダー＝状況読み上げ “危険要因”と引き起こされる“現象(事故の型)” 「～なので～になる」「～して～になる」 「～なので～して～になる」 5項目以上</p>
<p>2 R</p>	<p>本質追究 これが危険の ポイントだ</p>	<p>(1) 重要と思われる項目→○印<合意不要> (2) ○印項目→しぼり込み 1～2項目<全員の合意> (3) →◎印・アンダーライン＝危険のポイント (4) 危険のポイント→指差し唱和 リーダー「危険のポイント ～なので～して～になる ヨシ！」 →全 員「～なので～して～になる ヨシ！」</p>
<p>3 R</p>	<p>対策樹立 あなたなら どうする</p>	<p>危険のポイントに対する具体的で実行可能な対策<合意不要> → 各3項目程度</p>
<p>4 R</p>	<p>目標設定 私達はこうする</p>	<p>(1) しぼり込み 各1項目<全員の合意> → ※印・アンダーライン＝重点実施項目 (2) チーム行動目標設定 各1項目<全員の合意> (3) チーム行動目標→指差し唱和 リーダー「チーム行動目標 ～する時は～を～して～しよう ヨシ！」 →全 員「～する時は～を～して～しよう ヨシ！」</p>
<p>確認</p>	<p>(1) 指差し呼称項目設定 各1項目<全員の合意> 危険のポイントに対して安全を確認する項目、焦点を絞って視る“対象”と“確認する内容”をズバリとらえる。 (2) 指差し唱和 リーダー「指差し呼称項目 ○○ ヨシ！」 →全 員「○○ ヨシ！」(3回唱和) (3) タッチ・アンド・コール リーダー「ゼロ災でいこう ヨシ！」 →全 員「ゼロ災でいこう ヨシ！」</p>	